

第3回 PMS資格試験 受験生 募集中  
 PMS合格者506名に（PMS資格試験発表）  
 第3回PMS講習会 東京・関西地区で実施  
 人材開発プログラム 地方研修会 実施中  
 P2M早稲田大学オープン講座 開催  
 名古屋で初めてのP2M特別講演会 開催  
 企業向けP2M特別研修 活発化  
 IPMA第17回 モスクワ大会に出席



特定非営利活動法人  
 プロジェクトマネジメント資格認定センター

## P2M資格取得について



PMCC 吉川会長

当プロジェクトマネジメント資格認定センターは、本年2年目をむかえることができました。これもひとえに会員の皆様方、各委員会の委員の皆様方、P2Mクラブの会員の皆様方のおかげと感謝申し上げます。

P2M資格制度も昨年PMS資格試験がスタートし、第1回資格試験で252名、第2回資格試験で254名、合計506名が合格いたしました。合格者は、経営、工学、情報等の領域で横断的に問題解決の出来る人材であり、政策や戦略使命を十分理解し、専門集団を統合することの出来るスペシャリストと言えます。さらに、PMS資格更新継続プログラムをはじめ、自己研鑽、実践のための各種プログラムを享受できその社会的信頼性を向上し、社会の中核人材としての活躍が期待されています。

本年度は、上位資格のPMR(プロジェクトマネジャー)の資格試験を予定しています。平成16年度には最上位のPMA(プログラムマネジメント・アーキテクト)の資格試験も予定しています。

P2M資格取得は様々なメリットが考えられます。

日本の産業・企業組織の活性化と競争力強化に役立つ職業人としての誇りを与えることにより社会的地位の向上を図ることができる

人材流動化時代における人材の活用と雇用の創出に貢献できる

また、今年度は経済産業省の委託事業「人材開発プログラム」の一環として、地方都市で研修会を展開してまいります。全国からたくさんの方がPMS資格を取得し、共に知識情報化社会における日本の産業界の競争力復活をめざしてまいりたいと存じます。会員企業の積極的なご支援をお願いいたします。

## 第3回 PMS資格試験 受験生 募集中

来る8月31日(日)、第3回(平成15年度第1回)PMS資格試験が実施されます。今回は前回の京都に加え、福岡・広島・名古屋でも試験を実施します。試験会場は全国5ヶ所になりました。

- <東京会場> 工学院大学新宿校
- <京都会場> (株)PHP研究所京都本部
- <福岡会場> 電気ビル
- <広島会場> 広島国際会議場
- <名古屋会場> 中産連ビル

受験申込書の受付は、6月9日(月)～7月28日(月)となっています。試験結果の発表は、10月2日(木)を予定しています。

また、募集ポスターを作成いたしましたので、会員企業におかれましても、社内に掲示し積極的な受験応募のご推奨をお願いいたします。



PMS 資格試験  
 受験募集ポスター

## PMCC 第4回 理事会ならびに総会を開催

6月18日(水) PMCC第4回 理事会ならびに総会を開催いたしました。席上、平成15年度事業計画など下記議案について審議され、承認を頂きました。

理事の選任について

平成14年度事業報告・決算報告について

平成15年度事業計画・予算について

また懇親会では、会員相互間での積極的な交流が図られ、今後の資格制度の内容、普及に活発な意見交換が行なわれました。

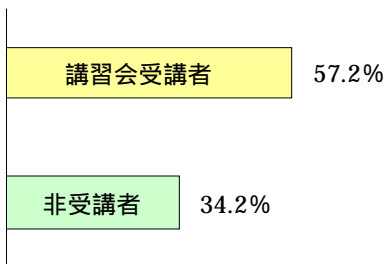


## PMS合格者 506名に (PMS資格試験発表)

去る4月18日(金) 第2回PMS資格試験の合格者が発表され、254名が合格されました。これでPMS資格試験合格者は合計506名になり、それぞれの企業で活躍されています。今回の合格率は44.4%で前回より1.4ポイントアップしました。また合格者の職種は、ソフトウェアエンジニアリング業、建設業、電気通信業、製造業など極めて幅広い業種にわたっています。

講習会受講者の合格率は、通算で57.2%。講習会非受講者は34.2%となっており、講習会受講者の合格率が23ポイント高くなっています。

【講習会受講者・非受講者の合格率(通算)】



## 第3回 PMS講習会 東京・関西地区で実施

8月31日(日)に実施される第3回PMS資格試験に向け、



第3回 PMS講習会が実施されました。今回から初めて関西地区(大阪・京都)でも実施し、全国3会場での講習会となりました。

京都：5月 9日(金)～6月 1日(日)：1クラス

東京：5月17日(土)～7月 5日(土)：3クラス

大阪：5月30日(金)～6月28日(土)：1クラス

全国で184名の受講生が、PMS資格取得に向け熱心に講義を受けられています。

また、第4回PMS講習会は、12月を予定しています。今回は昨年より受講生が減少しました。会員企業には12月の講習会への積極的なご応募へのご支援をお願いいたします。

## 人材開発プログラム 地方研修会 実施中

経済産業省の委託事業「人材開発プログラム」の地方研修会が各地で実施されています。

### 九州地区 福岡研修会

3月29日(土)～4月27日(日)に実施され、59名の方が



参加され、無事終了いたしました。PMS資格試験にも多数の方が受験されることが期待されます。

### 中国地区 広島研修会

中国地区で初めての研修会が、6月20日(金)～7月13日(日)全8日間56時間コースで実施されています。114名の多数の受講者が熱心に講義に耳を傾けています。



### 東北地区 仙台研修会

東北地区では仙台研修会が7月4日(金)～7月27日(日)



全8日間56時間コースで実施されます。研修会に先立ち6月12日(木)にオリエンテーションが開催されました。オリエン

テーションには32名の参加を頂き、P2Mに対する期待の大きさが感じられました。

## P2M 早稲田大学オープン講座 開催

大学で初めての、社会人を対象とした「社会人のためのP2Mオープン講座」を早稲田大学で開催。34名(社会人28名、大学生6名)が受講しま



した。最終日に行われた講師陣と受講者との討議には多数の意見が寄せられ、有意義な討議となりました。

## 名古屋で初めての P2M 特別講演会 開催

中部地区でのP2M普及拡大を図り、(社)中部産業連盟とPMCC共催の「中産連P2M特別講演会」を6月3日(火)名古屋国際会議場で開催しました。150名の参加者があり、幅広い分野の有識者の講演に熱心に耳を傾けました。

基調講演は、トヨタ車体(株)・トヨタ車体精工(株)会長 柘植映二氏の「21世紀型成長企業を造るリーダーの条件」。その他、名古屋工業大学教授 清水基夫氏の「日本産業変革のカギ・P2M」などP2Mへの取組みを訴えました。

多数の参加者があり、今後 中部地区でPMS講習会・資格試験を行なうための強固な基盤づくりができました。

## 企業向け P2M 特別研修 活発化

企業向けP2M特別研修が大きな広がりを見せています。6月には、NEC eラーニング、松下電器で実施されました。7月以降、富士電機、NECユニバーシティ、JALインフォテック、東京ガス等で行なわれる予定です。

また、地方での研修会の依頼も増加しています。今後大阪(西日本建設保証)、和歌山(花王和歌山工場)、名古屋(UFJ総合研究所、中産連)、浜松(浜松ホトニクス)等で、説明会や研修会を実施する予定です。

会員企業におかれましても、自社の教育体系にP2M研修を積極的に取り入れ、教育体系の充実にご活用下さい。

(敬称略)

### 会員企業紹介シリーズ 松下電器産業(株)様

#### P2Mを活用した経営戦略構築

松下電器産業グループのパナソニックシステムソリューションズ社では、2002年度よりPMに対するより積極的な取組みを進めています。PMに関する研修を新入社員対象の入門編、3年次程度までの理論編、演習を中心とした事例研修など体系的に整備するとともに、経営戦略にPMの考え方を活用すべく、2002年

度に3回のP2M研修を実施しました。

このP2M研修は、経営戦略研修と位置づけて、責任者以上を対象にP2Mの知識を取得することに加え、P2Mを活用して実際の経営戦略の検討を実施しています。松下電器グループでは、2001年度より「創生21計画」を始動し、「破壊と創造」を掲げ、超・製造業への挑戦を行っています。2003年度は、その仕上げの年として「創造」を完成させる年と位置づけられています。

プログラムミッションを明確にして、プログラム統合マネジメントのプロファイリングマネジメント、プログラム戦略マネジメントで戦略を構築していくP2Mの考え方は、「創造」の実現と完成に最適の考え方は、2003年度は、P2Mの思想を広め、PMS取得者の拡大のためにP2M研修を継続することに加えて、P2Mの思想を基本にバランス・スコアカードの手法を取り入れた職場単位での戦略構築研修を実施しています。

## IPMA 第17回 モスクワ大会に出席

6月4日～6日に開かれた、IPMA(欧州プロジェクトマネジメント協会)第17回モスクワ大会に、小原重信シドニー工科大学客員教授をリーダーとした11名が参加しました。参加目的は、最新の世界動向を把握し、P2Mを国際的に認知させるとともに、その情報を今後のガイドブック改定や資格制度に反映させることです。

世界的なPM動向としては、プログラムマネジメントが世界の主流になってきているとの報告がなされました。

ロンドン大学 P・モリス教授の基調講演で、伝統的なPMの限界が英国の鋭く指摘された。プログラムマネジメントが主流になる転換期をむかえている。

欧米各国が精力的に社会やビジネスに利用できる新しい標準ガイドと資格制度を整備し始め、日本のP2M型を追隨している。

## PMCC 会員拡大キャンペーン 実施中

当センターも2年目に入り、P2Mのさらなる啓蒙普及を図るべく、7～8月 会員拡大キャンペーンを実施中です。皆様方のご紹介・ご推薦をお願いいたします。

## P2Mクラブジャーナル 2号発行

P2Mクラブ会員の会報、P2Mクラブジャーナル2号を7月中旬に発行します。



## ホームページを全面リニューアル

PMCCでは、設立2年目をむかえホームページを全面リニューアルいたしました。項目を細かく分類し、外から見て分かり易い、検索しやすいホームページにいたしました。トップページには最新の情報を掲載し、今後も常に新しい情報提供をめざしてまいります。皆様方のご意見・ご感想をお待ちしております。

### PMCC広場

#### ～ PMS資格試験合格者の一言～

2001年の9月、開発部門から技術研修所に移り、ここで初めてPMBOK®を主体としたPMを知り、素晴らしいマネジメント技術だと思いました。

NECの中でもネットワークを応用したシステム事業構築関係の部門ではPMの活用が盛んで実績を上げていました。しかし、その他の事業関係ではまだまだ知られていない状況であり、更なる普及の必要性を感じていました。そんな中、P2Mの存在を知り、ガイドブックからは小原教授や執筆者の方々の日本産業復活への熱い思いが伝わってきました。

NECグループ内への普及のため、PMCCの方々にご来社頂き、セミナーを2回開催。短期のP2M研修を4回ほど開催させて頂いている間に、自分も挑戦してみないと上辺だけの理解になってしまうと思い、受験を決心しました。ガイドブックを熟読してみて、ファイナンス関係などの理解不足を痛感しました。試験に備え、ガイドブック以外に数冊PMの本を読み、新たに多くのことを学びました。

現在、MOT(技術経営)教育普及にも取り組んでいますが、P2MはMOT教育の幅広く深い知識体系を凝縮して、必須項目を漏れなく解説しています。企業にとって、「創造性」、「MOT」、「P2M」の知識と実践が今後の事業を支えていくキーになるだろうと思います。

特にP2Mは益々増加するプロジェクトを如何に実践すべきかの最良の知識体系であります。より多くの方々に、P2Mの幅広い知識体系を理解・実践して頂き、新戦略を頭の中で描き、夢のある事業を展開して頂きたいと願っています。

NECユニバーシティ・技術研修所 山口 誠一様

## P2M 広報ビデオ 完成

P2Mの概要紹介とPMCCの活動をご案内する新しいプロモーション用のビデオが完成しました。CD-Rをご用意しておりますので、P2Mの普及啓蒙に積極的なご活用をお願いいたします。



### プロジェクトマネジメントの歴史とその推移

#### 第3世代 P2Mの登場

今回は第2世代のPMであるPMBOK®の説明をしました。PMBOK®は優れたPM知識体系であるため、全世界に広がり今やPMのデファクトスタンダード化しています。しかし最近の社会情勢は企業の価値創造への要求や、対象とするプロジェクトの内容が複雑となり、もはや一つのプロジェクトとして処理できなくなってきました。

例えば企業改革があります。最近では常に企業改革を実施している企業が継続して競争力を増しています。企業改革には縮小プロジェクト、改善プロジェクト、拡大プロジェクト、価値創造プロジェクトが同時並行的におこなわれる必要があります。これらをバラバラに行いますと個別最適となって企業の活力を落とすからです。ここで21世紀のPMとしてプログラムマネジメントが登場します。

2001年に(財)エンジニアリング振興協会が経済産業省の研究開発事業として纏め上げ、日本が世界に発信したP2M(Project & Program Management)がIPMC(International Project Management Conference)で発表され、同時に行われた世界PM賢人会議で高く評価されました。日本発のP2Mの活動が世界的に影響を与え、本年モスクワで行われたIPMA(International Project Management Association)年次大会では、プログラムマネジメントが主流として取り扱われるようになりました。

(芝 安曇)

PMCC  
News Letter  
vol.5  
2003年7月発行

編集・発行 / 特定非営利活動法人 プロジェクトマネジメント資格認定センター  
〒105-0003 東京都港区西新橋1丁目4番6号 TEL:03-3502-4405(代表) FAX:03-3539-1741  
(分室) 〒105-0004 東京都港区新橋2丁目6番1号 TEL:03-3539-3022(代表) FAX:03-3539-3023  
さくら新橋ビル8階